

# 茶の湯



おもてせん け さどうきょうじゅ  
表千家茶道教授  
たはばな 橘 ぞうが 宗雅

栄西が中国から茶木の種を日本に持ち帰り、茶道は日本に伝わりました。仏教と結びついた茶道は千利休（1522～1591）により、茶の湯として一般の人に広まり、室町時代には茶会が盛んに行われました。

茶道というのは「礼儀、社交、芸術、修行、友好」が取り入れられています。昔は学校教育の中で修身教育として茶の湯が教えられました。

私の時代は小さい頃から稽古をし、「花嫁修業」として、また女性の「たしなみ」「身だしなみ」として茶道を身につけました。

一服の茶を頂く中には、日本文化として長い歴史、精神、所作、などを交えて、たくさんの「心配り」が必要とされます。その「心配り」「マナー」を身につけるため、私たちは茶道の稽古に励みます。



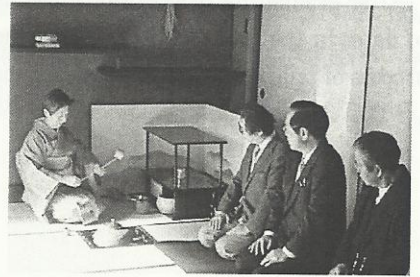
## 1. 茶道を学ぶ

• 茶室 一服の茶を頂くための畳の間です。

（畳） 数え方は1帖、2帖、3帖…と数えます。

寸法は1帖＝5尺8寸×2尺9寸（約1.74m×87cm）畳の間では歩き方、座り方、立ち方、襖の開け方、閉め方など、稽古を通し動作を繰り返し、自然の美しい所作を身につけます。

茶室は座って、客と向き合い、お茶を頂く特別な空間です。



• 茶道具 お茶を点てるための道具。

（茶碗） 茶を点てるための器。陶器、磁器など。

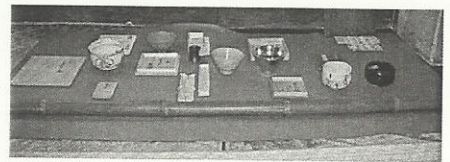
（棗） 茶を点てるために抹茶を入れる器。漆器など。

（茶入れ） 濃茶を点てる抹茶を入れる茶器。

（茶筴） 茶を点てるための道具。竹製。

（茶杓） 抹茶をすくうさじ。竹製など。

（柄杓） 茶を点てるために湯を汲む道具。竹製。



けんすい  
(建水)  
ちやさん  
(茶巾)

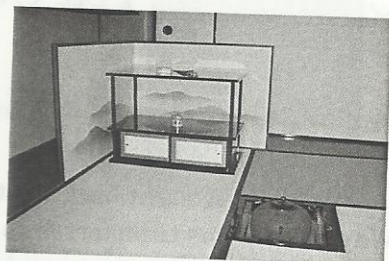
• 茶釜

ちや つか ゆみず どうく どうき どうせい  
お茶で使った湯水をこぼす道具。陶器、銅製。  
ちやわん きよ ふきん  
茶碗を清めるためにふく布巾。

ゆ わ かま てつせい  
お湯を沸かす釜。鉄製。

ふうろ → 夏5月頃～10月頃まで

ろ → 冬11月頃～4月頃まで。「ゆずの  
木」が色づく頃、火が恋しくな  
るとき、炉の中に火を入れます。



• 床の間

かけもの  
(掛物)  
はな入れ  
(花入れ)  
こうごう  
(香合)

か じく しょ かいが  
掛け軸としての書、絵画がある  
たけ どうき き きせつ はな い  
竹、陶器、木、かごなどに季節の花を入れる  
こう い うつわ  
香を入れる器

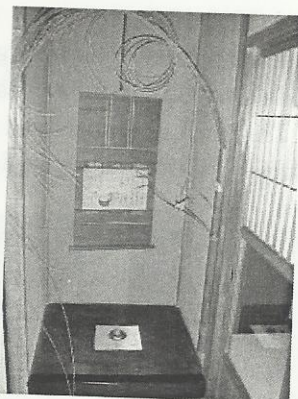
ふうろ → 白檀

ろ → ねり香、梅香

• 抹茶

ちや た ちや た  
茶を点てるときは、石臼で引いた粉茶に湯を注いで茶を点てる。

うすちや こいちや しゅるい さまざま さどう ちや  
薄茶、濃茶などの種類が様々ある。茶道でお茶を  
た た まっちや もち  
た点てるのは抹茶だけを用います。



• 茶菓子

おちがし しゅんかしゅうとう と い かし めい なまえ つ  
(主菓子) 春夏秋冬を取り入れて、菓子には銘(名前)が付けられる。

た はる の りゅうすい あけほの きせつかん たの めい つ  
例えば(春の野、流水、曙など)季節感を楽しむめい銘が付けられる。

ひがし らく せんべい ほ くだもの ひも  
(干菓子) 落かん、せんべい、干した果物など日持ちのするもの。いろいろ心配りをして客に喜んでもらう。

• 点前

ちや た きま  
茶を点てるための決まりあるパフォーマンス。

• 亭主

ちやせき なかすべて こころくば きやく しゅじん  
茶席の中全てのことに心配りをし、客をもてなす主人。

• 茶席、懐石

ちや た きやくりょうり だ じかん こく じかん つい  
茶を点てて、客に料理も出す。ゆっくりと時間をかける。2刻=4時間を費やして客に楽しい茶を楽しんで頂く。

• 野立席、立礼席

の たせき たれいせき おくがい しぜん せつ たの むちやせき たたみ ちやしつ かんたん こし  
屋外で自然とながら接しながら、楽し茶席。畳のある茶室でなく簡単に腰かけて頂ける茶。



## 2. 喫茶去 一服のお茶

「一服して下さい。」と差し出される茶は、抹茶、煎茶、番茶など数々あります。「御服がげんはいかがですか?」「大変結構でございます。」というあいさつは、茶席で用いられるあいさつです。

相手の立場によっては湯のみを茶卓に載せ敬って出します。

今はペットボトルのお茶、水を飲む時代です。自動販売機でお茶、水などを買うとは考えたこともありませんでした。

服のよき茶を味わう時代は遠ざかりつつあり、心淋しい限りです。

「いいあんばい」に一服の美味しい茶をゆっくり味わえる時代になれるか不安を抱きます。

## 3. 茶席によく使われる言葉

・一期一会 同し時、同じことに巡り合えることはないので、その時その時を大切に捉えようとする自分の心。

・和敬清寂 和 → お互いに尊ぶ心があれば自ずと和が生まれ、

(静寂) 敬 みぎ → 尊敬する心を持つ

清 (静) みぎ → 心を静かに清らかにする

寂 みぎ → 心を静かにすると目に見えないものがみ見いだせる。

・日々是好日 毎日毎日が佳き日であるのは、自分の心の持ち方一つによる。

## 4. 最後に

「一椀の中に楽しみあり」と言われるように、一服の茶をいただくことにより、日常生活の中に楽しさを取り入れていくことが、一番大切だと思います。一輪の花にも心を注ぎ、一椀を共有し、茶席の中での出会いを大切に、心を静かにして、友と語り、一服の茶を頂く。これは別世界です。

現代は、分からないことはコンピュータで調べればすぐに分かる大変便利な時代です。しかし、コンピュータの中にはどんなに工夫しても、引き出せないものがあります。「真心」です。

世界にない日本文化、茶道、「おもてなしの心、心の茶」を通して日本文化を学んでいきましょう。若者たちは日本文化離れがあるといわれますが、これは生活様式、食文化が均質的に移り変わっているからでしょう。これからはどんなことも自分で求め、自分自身の心で接し、相手にもと求めず、与える行動を考える、「give and take」、茶道の「道」に続けていきたいです。自分のできる何かを探しマニアル人間にならず「真心」をもって世界へ問いかけ、働きかけていきましょう。

## 経 歴 書

### 橋 宗 雅

昭和16年6月2日生

現 住 所 大阪市阿倍野区相生通1-1-18

電話・Fax 06-6652-4480

E-mail tachibanakm2000@ybb.ne.jp

### 茶歴

1958年12月 表千家入門

1975年12月 表千家講師

1990年 4月 表千家教授

### 活動

- 1991年 4月 西山浄土宗・総持寺 善導忌献茶  
(以下毎年勤める)
- 1992年10月 カナダ・バンクーバー東漸寺において献茶  
(平和の鐘を納める)
- 1994年 6月 海外技術者研修協会(財)日本文化講師を務める  
(現在に至る)
- 1997年 10月 日韓茶道文化交流会を催す  
(李 庚、張 淑姫 宅・光州)
- 1998年 5月 対外活動功労賞受賞  
(表千家大阪支部同門会より)
- 2001年10月 韓・中・日三国茶文化交流大会に参加  
大原寺にて献茶
- 2001年 11月 仏教・献茶・日韓茶道文化交流を行う  
普賢文化会館(普賢仏教大学・大田)
- 2002年 5月 韓・中・日三国茶文化交流大会に参加  
大原寺にて献茶
- 2003年 5月 韓・中・日三国茶文化交流大会に参加  
松廣寺及び大原寺にて献茶
- 2004年 5月 韓・中・日三国茶文化交流大会に参加  
大原寺にて献茶  
第30回宝城茶郷祭に参加
- 2005年 2月 和順郡 張宅にて日本茶道(表千家)を毎月指導にあたる
- 2005年 8月 郡山ナポリ教団日・韓国際茶文化交流会参加  
圓光大学校東洋学大学院日本茶道(表千家)指導に3/にる
- 2006年 7月 圓光大学校東洋学大学院日本茶道 夏季セミナー
- 2007年 7月 圓光大学校東洋学大学院日本茶道 夏季セミナー
- 2007年 7月 世界陸上選手権大会国際交流センターにて茶席を持つ
- 2007年 8月 圓光大学校東洋学大学院日本茶道 夏季セミナー  
韓国安山にて発表
- 2008年 5月 大邱にて世界茶文化大会にて功労賞受賞
- 2009年 10月 大阪市姉妹都市市民団体としてハンブルグにて友好茶席を持つ
- 2010年 3月 濟州島日本領事館より招待。日本領事館官邸にて茶道紹介  
濟州島外国語高等学校にて茶道紹介
- 2010年 6月 韓国光州和順にて古希茶会を開いてもらう

以上